

理念

高度な医療で愛し愛される病院

理念の実行方法

- 地域住民地域医療機関と密着した医療
- 連携組織による24時間救急体制の実施
- 何人も平等に医療を受けられる病院
- 医療人としての自覚と技術向上のための教育
- 最新鋭医療機械導入による高度な医療
- 予防医学の推進に向けた健診業務

上尾中央総合病院
院長 徳永 英吉

内視鏡手術支援ロボット 「ダヴィンチ」導入について

ダヴィンチ・システム (Intuitive Surgical社製da Vinci S Surgical System) は、腹腔鏡手術を支援する、内視鏡下手術支援ロボットです。患者さまのお腹にあけた小さな穴に手術器具を取り付けたロボットアームと内視鏡を挿入し、医師がサージョンコンソールと呼ばれる操作ボックスの中で内視鏡画像を見ながら操作して手術をします。これまで前立腺がんの全摘手術には開腹手術と腹腔鏡手術がありました。両方の手術の利点を併せたものが、ダヴィンチによるロボット手術だといえます。



da Vinci Surgical System
(左から、サージョンコンソール、ペイシエントカート、ビジョンカート)



ダヴィンチ・システムによる手術風景

2013年10月
稼 働



da Vinci S
SURGICAL SYSTEM

医療法人社団 愛友会

上尾中央総合病院

TEL.048-773-1111(代)

〒362-8588

埼玉県上尾市柏座1丁目10番10号

<http://www.ach.or.jp/>



編集後記

毎度広報誌アウンクルをご愛読いただきありがとうございます。地域のみなさまに支えられ今年の12月に開院50周年をむかえ、来年4月には新棟が竣工いたします。記事にありました通り、最新鋭医療器械による高度な医療で、いまでも、そしてこれからも地域の皆様に愛し愛される病院づくりに努めてまいります。

編集長 平田一雄



アウンクル

上尾中央総合病院 広報誌
~愛し愛される病院を目指して~

VOL.31
平成25年9月発行

小児外科診療開設のごあいさつ

当院では平成25年7月より「小児外科」が開設され小児外科の外来・入院診療が始まりました。小児の外科の病気は成人の病気とは全く異なります(たとえば胃がんや大腸がんは小児ではありません)。小児にしかない特殊な病気も多く、また、小児の体は成人のそれとは異なり発育・発達の途中にあるため臓器の機能が未熟です。したがって、小児の手術は小児の外科疾患と小児の特殊性についての専門知識を持ち、専門のトレーニングを受けた小児外科医が行なうことが望ましいと思われます。

少子高齢化の進む日本では、老人への対策ばかりでなく、将来を担う子供を大切にする社会をつくることこそが最も重要な課題であると考えます。小児外科医療を通して、未来の子供たちのために地域の小児医療のさらなる充実に寄与していかなければ幸いです。

特色

小児外科疾患の専門的知識を持って診療に当たります。

1. 患者の年齢: 0歳から15歳まで(新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)の外科疾患を扱います。
2. 対象となる疾患: 小児外科では骨・脳・心臓以外のほとんどの臓器の疾患を扱います。鼠径ヘルニアや停留精巣などの日常的な疾患を中心に様々な疾患を扱います。新生児外科、小児消化器外科、小児泌尿器科、小児呼吸器外科、小児がん、肝臓移植、重症心身障害児の外科などにも精通しています。
3. 小児外科で扱う疾患の詳しい内容については
日本小児外科学会ホームページ http://www.jsps.gr.jp/05_disease/index.htm をご覧ください。
4. 内視鏡手術の導入: 小児は老人と異なり術後に何十年もの長い人生を送ることになります。患者さんの長期的に見たQOL向上は重要であり、その意味で内視鏡手術も積極的に取り入れていきます。現在全国に24人しかいない小児外科領域の内視鏡外科学会技術認定取得医 (<http://www.jses.or.jp/about/certification05.html>) が対応いたします。
5. 小児科・成人外科との協力体制: 小児を扱う以上小児のことがわかっている小児科の先生方との連携は大事であり、また、成人外科との技術的な協力体制も大切であります。小児から成人へ成長する過程の様々な外科疾患に対応できる体制が整っています。
6. 近隣の小児専門施設との連携: 集中治療や特殊な治療を必要とする患者に関しては連携した近隣の小児専門施設に紹介する体制もできています。

教育・研修・研究

1. 外科専門医の取得: 外科専門医の取得には小児の外科疾患を一定数以上経験することが義務付けられています。当院で研修される外科志望の先生方の専門医取得にも役立つものと思われます。
2. 学会活動: 小児外科に関するたくさんの学会で活動し、日々進歩する医療の最新情報を入手し、臨床に取り入れることに力を入れています。

医師紹介 小室 広昭

【取得資格】 日本外科学会 認定医・専門医・指導医
日本小児外科学会 専門医・指導医
日本小児泌尿器科学会 認定医
日本内視鏡外科学会 技術認定取得(小児外科領域)
日本小児血液・がん学会 小児がん認定外科医
日本がん治療認定機構 暫定教育医
日本移植学会 移植認定医
厚生労働省認定 臨床修練指導医

【学会評議員】(2013年9月現在)
日本小児外科学会、日本小児泌尿器科学会、
日本小児血液・がん学会、日本内視鏡外科学会(申請中)、
小切開・鏡視外科学会、日本再生医療学会

